

# 民泊・防災…上京の明日はどっちだ

## 共産党がシンポ



上京の明日を考えるシンポジウム＝2日、京都市上京区

京都府の日本共産党北地区委員会と、ささこ祐仁府議、くらた共子市議の呼びかけで2日、「京のど真ん中・上京の明日を考えるシンポ」が開かれ、76人が参加しました。

民泊問題について、くらた市議は「もうけ優先の観光政策、大企業が稼げる国づくりが京都を壊す」と告発し「住んでよし、訪れてよしの京都を取り戻そう。そのため、宿泊客の総量規制も必要だ」と提案しました。

ささこ府議は「連続災害による被害が増大。上京区でも一部損壊は200棟を超える」「大宮消防出張所廃止などは防災に逆行する施策」と現状を報告し、「クーラーのない学校体育館が避難所でよいのか、耐震化も必要。こうしたことこそ予算をかけるべき」と提案しました。

民泊の規制を求める住民や旅行会社代表、建築設計士などが特別発言し、討論が活発に行われました。

「民泊進出を止める建築協定に取り組んでいる」「防災対策は想定できることをもっと強めるべきだ」などの発言がありました。